

秋の賑わいと味覚を満喫

今年で34回目を迎える八幡平山賊まつりが行われ、会場には約1万8千人が来場。秋の味覚や特産品を買い求めたり、ステージ発表を楽しんだり、秋の八幡平を満喫しました。



八幡平山賊まつりは、10月8日から10日までの3日間、市さくら公園イベント広場を会場に行われました。

開催に合わせて、友好都市・沖縄県名護市の渡具知武豊市長と姉妹都市・宮古市の桐田教男副市長が来市。渡具知名護市長は「コロナ禍であったが、先に佐々木孝弘市長に名護市を訪問いただき、交流は再開したと感謝している。当市の特産品をもっと流通させていきたい」と今後に期待を示し、桐田宮古市副市長は「八幡平市と宮古市は姉妹都市として交流は37年目を迎える。今回は5団体が特産品を販売しており、ぜひお買い求めいただきたい」と交流の継続に謝意を述べ、両市ともに特産品をPRしました。

3年ぶりに飲食スペースを設置し、開催日を3日間に戻した今回、ステージ発表の音色や立ち並ぶ出店ブースからのおいしそうな匂いに誘われ、多くの来場者で賑わいました。



会場挨拶する桐田宮古市副市長



販売状況を視察する渡具知名護市長(右)